

「三日月と金星の大接近(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

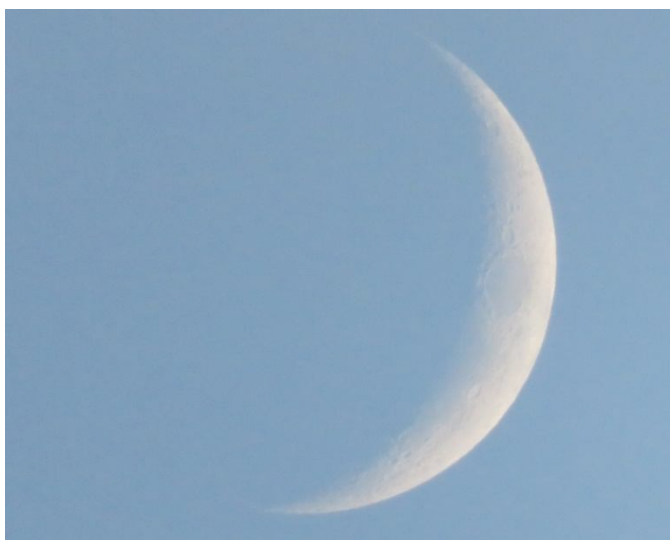
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今回の衛星と惑星の接近は、私が新しく購入したカメラの性能を試すのにも絶好の機会だった。今まで天体写真やオーロラ写真に愛用していた、デジタル一眼レフではなく、同僚に勧められて購入した、全自動のコンパクトデジカメである。



これがそのカメラで、Canon デジタルカメラ PowerShot SX720 HS レッド 光学40倍ズーム という機種である。軽くて白衣のポケットにも入る。電源を切ると、レンズ部が完全に本体に格納されるので、携帯にも便利だ。



このカメラに決めた理由は、重いデジタル一眼レフを常に持ち運ぶのが少し辛くなってきたこと、そして同僚がこのカメラで、三脚も使わずに、いとも簡単に素晴らしい月の写真を撮っていたからだ。今回もまだ明るいうちに月の写真を撮ってみたが、特に三脚や赤

道儀を使わなくても、昼の月でクレーターまで写っていた。

さて、「月と金星の大接近」といっても、両天体が実際に近寄ったわけではない。地球から月までの距離は約 38 万 km、金星までは近い時でも 4200 万 km、一番遠い時は 1 億 5000 万 km もある。月の光(正確には月が太陽光を反射した光)は約 1 秒で地球に届くが、金星からは近い時でも約 3 分、遠い時は 8 分かかる。接近して見えたのは、単に地球から見て、偶然同じ方向に見えていただけだ。



今回はカメラの性能を試す為に、難しいマニュアル設定は一切せず、すべて「オートモード」つまり、カメラに露出判断を任せて撮影した。だんだん暮れていく空に、月も金星もはっきりしてきたが、空の暗さに合わせて最適の露光で撮影してくれた。



望遠でも広角でも三脚は不要だった。広角では、このような情景的な写真表現も可能とわかった。三脚を使えば、星野(せいや)写真の撮影も可能だろう。